ボーリング柱状図

調　査　名

事業・工事名

ボーリングNO.									

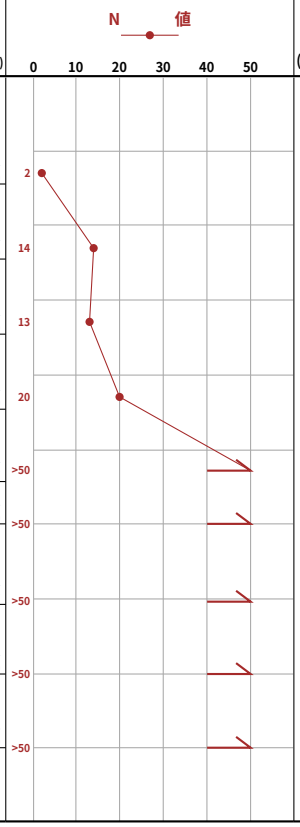
シートNO.

ボーリング名	B-1	調査位置				北　緯	36 ° 27 ' 8.9700 "
発注機関	栃木県　真岡土木事務所		調査期間	2008-07-08 ～ 2008-07-14		東　経	140 ° 08 ' 18.6700 "
調査業者名		主任技師		現場代理人	コア鑑定者	ボーリング責任者	
孔口標高	164.46 m	角度	180° 上 90° 下 0° 0.00 °	方向	北 0° 270° 西 90° 東 180° 南	地盤勾配	鉛直 水平 0° 90° 20.00 °
総掘進長	9.00 m	使用機種	試錐機		ハンマー落下用具		
			エンジン		ポンプ		

標尺 (m)	標高 (m)	層厚 (m)	深度 (m)	柱状図	土質区分	色調	相対密度	相対稠度	記事	地層岩体区分	孔内水位 (m) ／ 測定月日
					表土 (SF)	暗褐			有機質火山灰土である。含水・粘性共に中位で非常に軟らかい。		
1	162.96	1.35	1.50		ローム (Lm)	暗茶褐			全体に粘土質を帯び、非常に軟質である。稀に風化した軽石粒を混入する。局所で砂分の含有を認める。		
2					風化岩 (WR)	茶灰			砂岩の強風化部である。 風化・変質が岩芯にまで達しており、構成鉱物及び岩片等が変質鉱物で完全に置換され、原岩組織を殆ど残さない。 コアは粘土状を主体とし、亀裂は認識できない。 GL-5m以深、粘土化の進行頻度の低さが感じられ、固結度合いの上昇が伺える。 GL-5.3m付近より、稀にφ5mm程の岩片を認める。		
3											
4											
5	159.01	3.95	5.45		砂岩 (S)	褐灰			メタルクラウン刃先で掘進可能。コアは5～10cm程の片状～棒状を主体とし、最大コア長15cmを採取する。 GL-6.95～7.75m間は弱風化による岩塊強度の劣化が感じられ、特にGL-7.4m以深では局所的に風化が岩芯にまで及んでいる箇所が見られる。 以深は概ね新鮮な感じを受け、母岩強度の上昇が伺える。 亀裂は斜状にやや多いものの、オープンクラックは認められず、密着性に優れている。		07/10 5.45
6											
7						暗灰					
8						暗褐灰					
9	155.46	3.55	9.00								

標準貫入試験

深度 (m)	10cmごとの打撃回数 0－10	10－20	20－30	打撃回数／貫入量 (cm)	N値
1.15		1 / 20	1	2 / 30	2
1.45					
2.15	4	5	5	14 / 30	14
2.45					
3.15	4	4	5	13 / 30	13
3.45					
4.15	6	7	7	20 / 30	20
4.45					
5.15	15	20	15 / 7	50 / 27	>50
5.42	50 / 0			50 / 0	
6.00					>50
6.00					
7.00	50 / 7			50 / 7	>50
7.07					
8.00	50 / 0			50 / 0	>50
8.00					
9.00	50 / 0			50 / 0	>50
9.00					



原位置試験 深度 (m)	試験名および結果	試料採取 深度 (m)	試料番号	採取方法	室内試験	掘進月日
						07/08
						07/09
						07/10
						07/14